

9.まとめ

「幸せ人口 1000 万～ウェルビーイング先進地域、富山～」に寄与し、

地域の魅力向上と環境保全に資する“持続可能な先進的公園モデル”に

水と緑豊かな広い敷地と様々な施設を有する太閤山ランドは、“県民のこころのふるさと”として多くの人々に愛され、親しまれてきた一方、開設から約 40 年が経ち、施設の老朽化とともに、現在のニーズに対応していない施設もみられており、新たな魅力創造が求められている。

本調査では、目指すべき公園像として「ワクワクする新たな公園文化の創造拠点」を掲げ、誰もが年間を通じて楽しめる公園とするため、最先端技術の活用や、民間活力を取り入れた公園の管理運営などの可能性について調査・検討を行った。

先進事例調査から、VR や AR などの最新技術をスポーツ、観光、健康、学習など多様なコンテンツと掛け合わせることで、新たな注目コンテンツを生み出しているほか、ニュースポーツや大型アスレチックなどのアクティビティ、キャンプなどでの体験型コンテンツや、イルミネーション、プロジェクションマッピングなどを使ったエンターテインメント性の高いコンテンツが、若者を中心に注目を集めている傾向にあることが明らかとなった。また、最先端技術の活用によって、移動の効率化や、ICT 活用による管理運営の効率化なども進められている。

県民ニーズ調査では、太閤山ランドは小さな子どもが楽しむ場としては充実しており、自慢できる場所であるが、中高生が遊ぶ施設や大人が楽しめるアクティビティについてはやや不十分であるという意見が多く聞かれた。

なお、新しい施設や機能を求める意見が多く聞かれた一方で、現在の豊かな敷地や自然の維持や活用を求める意見も多く聞かれた。

以上の調査結果を踏まえ、今後、太閤山ランドは様々な世代の多様なニーズやシーンに対応した、子どもから大人まで誰もが楽しめる県民のくらしに寄り添った場となり、本県が打ち出す「幸せ人口 1000 万～ウェルビーイング先進地域、富山～」に寄与する場になることが求められる。

このため、民間活力を取り入れ、資金やノウハウ、ネットワークを最大限に活用し、県と民間事業者が協働し互いに Win-Win の関係となれるような事業や施設、サービスを導入することで、誰もが年間を通じて楽しめる公園としていく。

あわせて、太閤山ランドの広大な敷地と豊かな自然を最大限に活かし、みどりの多様な機能を守り高めることで、生物多様性や健全な水循環などを保全し、グリーンインフラとして地域の環境保全へ寄与する。

こうしたことにより、太閤山ランドが次世代へと受け継がれ、SDGs を推進する本県における、持続可能な先進的公園モデルにしていく。